

令和4年度 第1回 学校運営協議会（報告）

日時：令和4年6月25日(土)

午前9時30分～12時

会場：静岡高等学校 会議室

1 開 会

- ・校長挨拶
- ・新任管理職紹介

2 授業参観（全日制）

3 協議等

（1）令和4年度学校経営計画の説明及び承認（小関校長）

- ・ 令和3年度本協議会でいただいた意見を踏まえ計画案を策定。（資料P. 1）
- ・ スクール・ミッション及びスクール・ポリシーの詳細を説明。（資料P. 2～6）
県教委より提示されたスクール・ミッションに沿った内容である。
取組手段や成果目標等にいただいた意見を取り入れ、全日制では新学習指導要領への教育課程移行、授業改善、進路指導、働き方改革など具体的な内容が変更されている。定時制では、多様な学習活動や外部との連携、様々な教育資源の活用を行い、一人一人に応じたきめ細かくあたたかみのある教育活動を推進する。
- ・ 総合的な探究の時間「印高探究」1・2年次の指導計画を説明。（資料P. 7～8）
1年次では社会科学、国際、医療など幅広いテーマから選択したゼミ活動、論文、相互評価、2年次では修学旅行における研修活動、レポート作成等を実施。本年度のゼミ活動では、地域の大学院生にチューターとして入ってもらう計画である。
- ・ 本年度の教育目標、スクール・ポリシーは保護者・生徒に配布して校長より説明。
印高の意味、生活リズムと健康、学習習慣、厳しさと楽しさのメリハリを付けた高校生活、学びの機会への積極的チャレンジ、一つの尺度や価値観で見ないこと等具体的な学校生活の取組や注意事項とあわせて保護者・生徒へ伝えている。

<意見・質疑応答>

- A委員： 前回意見にあった地域の問題や世の中の課題を見つめるといった内容は、印高探究の中で行うという理解でよろしいか。
- 校長： 資料8ページのゼミ活動一覧のとおり、社会科学や社会問題には地域の問題も含まれる。また、静岡市が外部機関や地域業者と行うキャリア教育の企画にも参加する。
- A委員： どの学校でも探究学習は行っているが、学校だけでなく外部の人の力を借りることで充実した学習内容となり、地域の問題や社会の課題にも対応できる。例えば、自分が指導に関わっている高校では、近隣商店街の課題に取り組んでいる。高校1年の探究学習では、店の特徴を把握しPRすることから始まるが、生徒が店を訪ね、突然店主に質問するなど、人に会って挨拶することも聞き方も知らないまま始まり、まずは、インタビューのコツを覚えていく。担当の先生はインタビューの力、課題の本質をつかむ力を教えたいという。できるだけ外の世界に出ていくチャンスをつくる。学校だけでは難しいので外部をつなぐブレインのような存在がキープできると良い。
- B委員： 探究学習を通じ、生徒は人間的に色々な面で成長できると思う。探究学習は

普通教科と違い評価が難しいと思うが、どのように評価し、生徒にフィードバックできると考えているか。

- 校長：探究の評価は数値で行っていないが、例えば、ゼミ活動は論文にまとめて、生徒同士で輪読し、相互評価する。優秀な論文は下の学年の生徒も参考とし、学年外にも評価が広がっていく。修学旅行報告は全員が執筆したものを共有する。どのようなテーマでどのような論文となるか互いに見る形となる。
- B委員：探究のような活動は生徒の自信につながる部分であり、外部の人に素晴らしかったなどの評価が貰えるとさらに伸びる。その後、自ら外の世界にも入りやすいし、さらに、将来、社会に貢献するような人物により近づいていく。
- A委員：先程の活動で言えば、生徒が商店PRポスターを作って渡すと、商店街の方たちに大変喜ばれ、一緒に写真を撮るなどしており、一種の感動が生まれている。子供たちの心に強く伝わっているものがあると感じる。
- 校長：本校ではアカデミックな大学研究等を前提とした探究活動が多く、地域活動という点では弱いと思う。地域を知らなければ、将来、社会に貢献しようとしても中々できないので、地域の現状を知る視点も大切にしていきたい。
- C委員：中学時代に成績が良くても、静高では一番になれないという話もあったが、授業では皆、非常にまじめに一生懸命聞いている様子で安心した。昔よりもルールを守るしっかりとした生徒が多いと感じる。
- iPad 導入では、効率的に勉強して良くなる部分と、本来の授業として必要な部分を残すことの両方が大切だと思う。
- 新入生などへ新しい時期に色々話すことは良いと思う。睡眠時間は、日によって2時間以上の差があると、体内時計がずれ、生活リズムにも影響し良くないという。自分の会社でも新入社員と色々話しているが、プレゼンテーションの担当に手を上げるなど、最近の人は非常に積極的だと感じる。社会人としては、ルールを守り、言われたとおりの確にやるのが大切だが、能動的、積極的に仕事へ取り組むような人が、企業や社会に貢献してくれる。静岡高校でも、昔から仮装や修学旅行など学校行事において、自らプランを立て、好きな事、興味のある課題には積極的に取り組んでいると思う。子供たちが生き生きとした体験を経て、将来、社会において、自ら手を挙げ、積極的に貢献するような人に育てて欲しい。
- 会長：学校経営について、計画の承認を採決したい。
(学校経営計画承認にかかる採決を実施。)

- ・ 令和4年度学校経営計画について承認された。

(2) 学校概況及び事業の説明 (副校長)

- ・ **学校生活及び行事等における新型コロナウイルス感染症対策について**
本年度も引き続き感染症対策が必要となっている。
部活動や行事の規制はあるが、行事中止や学級閉鎖、校内感染拡大等はない。
家族由来の濃厚接触者等が一定数出ており、出席停止時には授業を配信している。
学校行事では、入学式の保護者来校は1名まで、始業式等の行事も放送やグラウンドに分散するなど、様々な対策の上で実施している。文化祭の来校者も事前申込みによる中学生及び保護者等に限定した。グラウンド会場の仮装では、気温が高くなり、熱中症の生徒が出た。そのため日程を変更し、昼は教室で2時間ほど待機、時間をずらして実施した。感染症対策と併せて熱中症対策も実施している。
海外修学旅行は目的地を国内に変更した。
- ・ **一人一台端末の導入について**
本年度新入生より iPad を各自で購入。
GIGA スクール構想の一人一台端末として、中学校で使用してきた学年となる。
6月までに全員が校内 Wi-Fi 環境に接続し、設定を完了した。

授業や様々な活動で積極的な利用が始まっている。昨年まで生徒へ配布していた説明文書 50 枚程が 3 枚となった例もあり、省資源のみでなく教員の作業省力にもなった。また、中学校までの履修内容に個人差があるため、グーグルクラスルームを利用し、個別に課題を出しフォローするなど、推奨されている教育の個別最適化にも資するものである。様々な課題もあるが、有効に活用していきたい。

- ・ **施設改修について**

校舎生徒トイレ改修工事が進められている。

- ・ **イノベーション・ハイスクール事業について（資料 P. 9～11）**

静岡県の普通科高校の特色化を目指し、令和 3～5 年度実施のオンリーワンハイスクール事業の一つである。本校は県教委指定校となっており、医療人材の育成、メディカルを中心に、グローバル、STEAM 教育の取組を実施する。医療人材の確保は静岡県の課題でもある。

昨年度は新型コロナ関係で中止となった取組も多かったが、大学医学部訪問や専門講座、外国人留学生ワークショップ、科学施設訪問など資料 P. 10 のとおり実施した。本校の考えとしては、生徒がわくわくする取組、一流・本物・最先端に触れる機会をつくり、生徒の主体性や好奇心、探求心、そして一番大切な社会貢献となるような高い志を引き出し、自発的、内発的な動機付けとした進路実現を支援する。昨年、浜松医科大学訪問では、それまでほとんどオンラインによる講座だったのが、直接訪問し、実際の研究設備、医療機器等に触れ、現場の説明を聞いたことが、非常に良い体験となった。資料 P. 11 の取組紹介のとおり、現役医師や東大・東工大教授、予備校講師などによる各講座も生徒には大変良い刺激となっている。

今年度も引き続き資料 P. 12 のとおり各講座や施設訪問、グローバル事業を実施する。また、本日見学いただいた気象庁職員(卒業生)による授業、宇宙エレベーター研究など、平常授業とは違った様々な機会を設定し進めていく。

<質疑応答>

D 委員 : 学校経営計画や各事業に、今年の学校運営協議会の意見が随所に反映されている。静岡県の喫緊の課題として医療体制の充実はあるが、医学部進学後に医者として活動できるのは 10 年後となる。絶えず継続的に医療人材を輩出することが必要となり、対応できるのはやはり静岡高校だろう。その役割は重要だと感じる。スクール・ミッションにもあるように高校教育のフロントランナーであるといった自覚が、職員の中にも生まれている。今後、静高をどのような学校にしていくのかといった課題の対応に、医療人材育成も活かされてくると思う。

一番大切にしているのは、子供たちがわくわくすることという部分が良い。数式を解く、あるいは歴史の年号を覚えるだけでも、勉強で「わくわく感」をいかに醸し出し伝えていくのか、この部分で子供たちは伸びていく。教育をする人、教育環境を整える人はそこが任務ではないかと思う。ここに気づき、体制を整えようとしていることが素晴らしい。我々大人は妥協や諦めも知っているが、子供たちはわくわくする心を持つことで、医学部はもちろん、様々な未来を選択していくことができるので応援していきたい。

E 委員 : 事業の取組も計画も非常によくできている。ただ、先生方の負担も多いのではないか。以前も提案したが、外部の先生やボランティアを活用することで先生方の負担も減ると思う。先程、D 委員が言われた「わくわく感」も外部の方が入ることであまりよくいく。

もう一つは、授業が一番大切であるということ。生徒も先生も楽しいと感じる授業が良い授業だが、そのためには先生がもっと楽に授業ができると良いのではないか。今は色々な教育ツールが出てきているので、そういったもの

を活用できると良い。今まで 10 分かかった説明が 8 分でできれば、先生も生徒も余裕を持って進めることが出来て、さらに楽しく良い授業ができると思う。学校が、そういったツールを取り入れてくれると良い。

F 委員 : 医学部訪問以外にも各講座などに参加した生徒の人数や感想もあれば聞きたい。生徒の意見をどのようにフィードバックさせているのか。昨年度の生徒の声を今年度の取組にぜひ活かして欲しい。

副校長 : 昨年同様の取組も多く、生徒の声を活かして計画を練り直していきたい。

校長 : 新型コロナ対策で前年から行事が中止になっており、医学部訪問は久しぶりに実施された外部体験事業だった。実際に生の医療現場を見て自分の考えが甘かった、あるいは、改めて医学の道に進みたいという思いを強くしたという意見が多かった。医学講座も現役医師による講演、D 委員にもお願いしたが、いずれも生の声を聞いてよかったという感想が多い。毎回 30 人前後の生徒が参加し、興味関心、知的好奇心を喚起している様子がわかる。

G 委員 : 様々な中学校から進学したために、成績が落ちたと感じる生徒のモチベーションを、学校が意識している点が印象的だった。進学校でありながらも個人を意識する考え方から、静高の誠実さが伝わってくる。生徒に最善のやれるだけのことをやろうという印象を強く受けた。

皆様が言っていた子供たちの「わくわく」は、一人一人のやる気を引き出す、内在的な動機付けで気付きをどう与えるかということだと思う。資料の成果と課題にもあるように、働き方改革が問われる中で、これだけの内容を行う先生には相当の負担があるのではないかと。前回も申し上げたが、静高を今後どのような学校にしていくのかというキャリアを踏まえたコーディネーターの配置、静高の宝、人材をいかに育成していくかを理解した人材の配置が一番いいのではないかと感じる。ただ、静岡県は ICT 整備の予算を見ても、人材に財政的措置をとることは難しいと思う。他県を参考にすると、PTA や同窓会などが予算を捻出し、配置することができるのではないかと。トップランナーとしての静高を理解する人材、運営委員の方たちも優れた方々だが、県内の医療関係、科学関係、様々な分野の優秀な人材と信頼関係を築き、さらに他県やグローバルという視点に広がっていくと、遠隔地、海外からの講演も可能となり、実施している事業がさらに進んでいくと思う。

B 委員 : 学校と教職員を応援するのがコミュニティスクールの目的でもあり、的確な意見だと思う。

(3) 意見交換等

B 委員 : 本日の授業の様子を見て、または学校の説明を聞いたうえで、委員の皆様全員の学校運営にかかる御意見を自由に語っていただきたい。

C 委員 : 通常 65 分授業だが、昔は 75 分授業だった。集中力を考えるとこの時間か。

校長 : 65 分がベストというわけではなく、また教科にもよっては 65 分がやりにくい場合もある。県内の高校は通常 50 分で 65 分実施校は 3 校しかない。大学は 100~120 分。静高は 65 分として入学してくるので集中できていると思う。通常 50 分×6 時限より 65 分×5 時限の方が学習時間としては多く確保できる。朝が早いと、放課後の部活動や自主勉強の時間も確保できる。様々な効果を考え、現在の 65 分授業を実施している。

C 委員 : 今日の授業で通常生徒は 40 名程度だが、理科選択では 10 名くらいの教室もあった。少人数の場合、集中力が高まりそうだが、80 名を一人で教える時もある。臨機応変にやってくれば良いと思う。

校長 : 65 分授業は非常に充実した内容で、通年で考えると進行も早くなるが、その分、先生方の準備のウェイトも重い。先程、各委員から意見をいただいたとおり、やはり授業が一番大切であり、打てば響く静高生なので、先生方も多少の負担があっても、65 分で質の高い授業づくりを目指している。

F 委員 : 1 年生の授業は iPad を使用していて、自分も時代に取り残されないように

- しないといけないと感じた。対して、3年生は授業が始まると、スマホをロッカーにしまい教室に持ち込まないことを徹底しており、これも良かった。
- F委員 : 同窓生から聞いたが、最近は運動部活動に入る生徒が減ったのではないかということだった。静高生は文武両道を掲げており、全員部活動に入っていると思うが実態はどうか。
- 校長 : 全員入っているが、人数は部活動によって偏りがある。学校要覧8ページに人員構成があり、男女比も変わって来ていることがわかる。昔より部活動の種類が増えており、部によっては部員数が減っている場合もある。選択の幅は広い方が良いので、部活動自体を減らすことはあまりないと思う。
- F委員 : 部活動によって体力が付くと勉強も捗る。文武両道で両方頑張るって欲しい。
- E委員 : 自分は卒業後、関西に行った。関西の高校は私立の全寮制も多く、寮生は勉強がわからない時は友達に聞くと言う。授業でわからないことをその日のうちに聞いて解決できる、こういうシステムが何かできないだろうかと思う。仕事で大学と関わっていた頃から感じていたが、大学の研究室も予算はない。光熱水費で終わってしまい、肝心の実験費などが足りないため、各企業から補助してもらおう。高校でも寄付金やクラウドファンディング、ふるさと納税のように卒業生から集めることも考えられるのではないか。静高は甲子園の寄付金も集まっている。企業や同窓生の支援を教育資材の購入などに充て、教員の負担を減らしていく、そんな手段も考えられると良いと思う。
- 校長 : 本校は後援会・同窓会もしっかりしている。資料オンリーワンハイスクール事業の予算書にもあるが、●の付いたものは県公費の予算で、その他は別予算に援助してもらっている。印高と表示があるものは後援会の予算である。
- D委員 : 新型コロナウイルス感染症対策も非常にしっかりやっていると感心した。濃厚接触者がある程度出るとはやむを得ない。そこにきちんと対応し、学校の授業が続けられているのは良いことだと思う。教室でエアコンを使用しているためか窓の開け方が様々だった。熱中症対策とともに換気に注意は必要だと思う。新型コロナでもBA.5の情報はまだ少ない。今まで同様の感染症対策を続けていくことで、クラスター発生を防いで学校を継続して欲しい。タブレット端末の導入はやはり素晴らしいと思う。例えば、黒板の内容も、教室後方や角度によって光って見えなかった席でも、一人ずつ手元で見ることができて、授業がさらに受けやすくなっている。一方で先生が黒板の内容を指して説明しても見ていない、気が付かない、拡大して先生の書き込みが画面外となるといった事例も見た。良い点と悪い点がある発展途上のツールであり、先生方が工夫されていく点でもあると思う。また、教科書、タブレットを並べていっばいで机が狭いと感じた。新しいツールをうまく取り入れており、こういう時代になったと感心し、勉強になった。
- G委員 : 全国の色々な学校を回っているが、個別最適な学びとタブレットの有効活用は相当関連性があるのではないかと感じている。通信状況もあると思うが、タブレット導入が進んだ現状を踏まえ、学校が掲げる高い志や社会貢献等の実現と先生方の働き方改革のバランスをとるためにタブレットをどのように有効活用するかをこの先示して行って欲しい。
- A委員 : 昨年伺った進路課長の「将来の目標のために、入らなければならない大学を見つける」という指導方針が素敵だなと思っていた。今年度はそれが目標として挙げられていて良かった。ただ、「入らなければならない大学」という目標の書き方だと、従来から静高のイメージに課せられた東大、京大、医学部などと受け取られてしまう。そんな呪縛のようなものがある。自分がなりたいたいものになる、そのためにどうしても入りたい大学を見つけるといったことを、是非、もっと学校として積極的に広報していくと良いと思う。子供たちもその呪縛から解放されることを望む。
- B委員 : 大学関係の仕事で、静岡県大井川以東、山梨県、長野県、神奈川県の高校を回っている。最近の元気な学校、明るい展望を見せる学校の共通点は、生徒

が生き生きとして、そのため進学先も決めやすく実現でき、満足度も高い。静高に似ている部分もあるが、特徴として3つ挙げることができる。1つ目は社会貢献活動、2つ目は探究活動、3つ目は視野を拡大している学校。隣市の公立高校で国公立大学進学者数を80人程から173人まで伸ばした学校があり、校長に聞いたところ、探究活動が良かったとのことだった。自分も講義に行ったがSDGsの課題毎に講師を呼び、生徒に考えさせる力を付けさせている。ただ記憶して書くという勉強では、今の入試制度は突破できない。短い限られた時間で物事の本質を読み取る力が必要となり、そこで成果をあげている。ただ、本質的に社会貢献できる人というのは、例えば、面接でも「私は何々をしたいです」で終わらず、社会を変えることを意識し、「私が何々をすることによって周りをこう変えたい」と2段論法できちんと答える説明できる生徒になる。そういう発想ができる生徒を育てていきたい。特にポテンシャルの高い静高生が身につけたら、学校も地域も良い方向に向かうことが見えている。そのためにも視野の拡大が必要で、昨年度のD委員の講演も嬉しかったが、E委員がおっしゃるとおり、外部の方に入っただき、その道のプロに直接触れ合う機会が、子供たちの心を揺さぶると思う。自分たちは応援する立場だが、先生方に無理のない範囲で、そういった方向で今後も進めて欲しい。

校長：生徒にも先生にも学校で一番大切なのは授業であり、楽しい授業を心掛けている。65分という時間も密度の濃い時間となっている。先生も準備は大変だが、生徒が応えてくれるのでやりがいを感じて授業に臨んでいる。そこに頼るだけでなく、働き方を考え、御意見いただいたように、外部人材の導入など課題に対応していきたい。今日は授業や先生の働き方改革だけでなく、生徒にわくわく感、本物に触れる機会などについて、様々な貴重な意見を頂いた。本年度は、東京芸大の佐藤雅彦教授による「新しい伝え方」の講演や、同窓会主催で卒業生医学博士の姫野友美氏の講演なども実施した。講演では20人近くの生徒から多くの質問が出た。生徒が本物に触れると、応えるように質問が出てきて、自分の将来を考えるきっかけとなっている。今回いただいた御意見を学校運営に活かし、来年度計画とあわせて3回目にまた御報告したい。本日はありがとうございました。

4 閉会・諸連絡

(1) 議事録について

- ・後日、ホームページ等へ議事録を掲載する。

(2) 今後の予定

- ・第2回 令和4年10月27日(木) 午後4時45分～7時20分(定時制公開日)
- ・第3回 令和5年2月上旬